

OLIS 2010 Spring 講義レポート

6月21日(月)

「規制の変化が保険業界に与える影響」(日本生命 執行役員 上田晶平氏)

1995年の保険業法の改正後、規制緩和が進み、商品や販売チャネルの多様化につながった。講師は、こういった多様化を背景として、規制の変化の生保経営への影響について「消費者保護意識の高まり」と「監督規制の強化」の2つの側面から話された。

「消費者保護意識の高まり」の側面から、不払い問題と保険法改正の影響を取り上げ、具体的な改善への取組みとして約款至上主義や請求主義からの脱却について説明された。

商品や販売チャネルが多様化するなかで、生保会社を取り巻くリスクが大きく変化し、監督行政は、保険業法の改正以後も強化を図ってきた。講師は、標準責任準備金とソルベンシーマージン比率に基づく早期是正措置が健全性制度の2つの柱とされた。会計基準や監督基準について、国際統一化の検討が進んでいることにも触れられた。

総括として、顧客の立場に立ったきめ細やかなサービスを提供していくことと、健全性に充分留意した経営を続けていくことの重要性を強調された。

参加者から、医療保険の見直し、なぜ変額保険やユニットリンクのような商品に移行しないのか等について、沢山の質問があった。